

中国・南昌市への青年訪問団派遣事業 事後報告書

◆学校名と名前：高松大学 赤松陽太

江西省及び南昌市に滞在中の様子（写真を含む）や本事業で得たこと、感想等をご記入ください。（1,000字程度）

私は今回の青年訪問派遣事業で、江西省、南昌市での芸術、産業技術におけるレベルの高さを体験し驚かされるとともにこれまでより一層深い世界のグローバル化の実感を味わうことができました。実際に海外に出ることで、知る機会があっても実感することの難しい日本以外の生活を五感で感じることができ、価値観の幅が広がったように思いました。

特に多くのことを学べた機会は大きく括ると二つあります。一つ目、国際友好都市青年リーダー交流会や日中青年交流大会および歓迎セレモニーといった交流の機会です。様々な国の人が集まりその国特有の物や景色をスライドで発表していたり、世界をよりよくするためのテーマで発表していたりと、地域ごとの生活や伝統、そして誰もが皆社会や世界について真剣に思案していることが伺えました。国・地域の特色の発表では自分が普段生活している日本以外の生活が伺えたので新鮮味を感じるとともに、魅力的に感じたので実際に行って景色や生活を体験したいとも思いました。発表は中国語や発表者の母国語や翻訳された英語が主であり意味を完全に理解することはできませんでしたが、自分の国を誇りに思っているなど感じるなど、情熱的な発表にあふれていて胸打たれることもありました。二つ目は、中国の施設から滞在中に学ぶといった鑑賞の機会です。観光船での夜景観賞や海昏侯遺跡、「china」の鑑賞、VR 産業基地、中国陶磁博物館、瓷の道研学基地、高嶺・中国村、江西ヘリコプター科学館…etc。様々な分野で極められた技術を鑑賞し、どの分野からも技術を突き詰めて生まれたものの素晴らしさを学ぶとともに、自分も自分なりの長所や技術を突き詰めて誰かの役に立てたらな、誰かに感動してもらえ何かを作れる情熱を生み出せたらなと思うなど、何度もインスピレーションを受けました。

中国を移動する中でも日本と街並みが大幅に違ったり、建物の規模が桁違いだと感じたりすることもありました。実際に見ることで、ニュースで聞くような海外の様子とは違った生で見る光景は自分の視野が狭いことを気付かせてくれた上に、自分の目で、自分の足で赴いて体験することがどれだけ大変で大切なことなのかということを実感することができました。今回は多くの人々の助けを借りて多くのことを学ばせていただいたので、助けてくれたすべての人に感謝を忘れず、いつかまた海外で新しい発見をしたいです。